

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

学校名	神埼市立脊振小学校	C : やや不十分である D : 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	保護者アンケートからは、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価をいただいた。また、全職員一丸となって学校教育目標の実現に向けて取り組むことができた。次年度は、さらに、校務の整理や行事の精選等に取り組むことで、児童と向き合う時間を十分に確保し、児童の実態を十分に踏まえた教育活動を行いたい。また、地域の活力を生かし、小中学校が連携した教育活動の充実に引き続き取り組みたい。児童がより意欲を持って学習し、様々な教育活動に積極的に取り組むことができるよう、授業や行事の工夫などの改善に努めたい。	
2 学校教育目標	脊振を愛し 進んで学ぶ たくましい子どもの育成	

3 本年度の重点目標	①安心して学べる場を確保し、子ども・保護者・地域から信頼される学校をつくる。 ②教職員の意識改革と効率的な自己研鑽を推進し、指導力と人間性の向上を図る。 ③「知、徳、体」の調和のとれた生き抜く力を備えた子どもを育成する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度 (評価)		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・校内研究において、授業づくりや教育環境づくりにより、各教員が主体となって取り組む「SS-UP活動」を計画的に実施する。 ・システム・UP…職員で校内研究の方法や内容を話し合って進めていくミーティング。 ・スキル・UP…職員が輪番制で模擬授業を行い授業力を上げるミーティング。 ・セルフ・UP…学力向上に必要な取り組みを教師一人一役で担当し実施するもの。	A	・ほぼすべての職員がスキルupでの授業を担当し、主体的に授業改善に取り組んでいる。今後、様々な実践授業における児童アンケート結果をもとに、改善を行っていく。 ・セルフUPでの一人一役活動においては、年度後半および来年度に向けて、各学年の実践例の紹介や内容の精選を行っていく。	A	・児童アンケートや職員からの振り返りを受けて、「研究のまとめ」を完成させ、成果と課題を共有することができた。 ・システムアップミーティングおよびスキルアップミーティングにおいて、職員が積極的に考えを交流し、研究を自分事としてとらえて活動することができた。来年度は全員が提案授業を行う予定である。	研究主任 研究副主任
●心の教育	●児童生徒が、自他やの生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○神埼市の「四箇条の誓い」や脊振北の「石の門の教え」をもとに、感謝の気持ちや礼儀正しさ、思いやりの気持ち等を育むために、教育活動全体を通して繰り返し指導し、90%の児童が生活の中で意識して実践できるようにする。	・人権教育の実施 ・全校で「ほかほか広場」(友達の良い行動の紹介)に取り組む、定期的な人権担当からカードを紹介する時間を設け、友達の良さ見つけへの意識を高めていく。 ・道徳科についての校内研修等を行う。	B	・人権担当が友達の良いところカード紹介を行い、全校で実施したことにより、友達の良いところを見つこうという意識を高めることができた。 ・道徳の校内研修については、長期休暇の短縮のため、研修を実施することができなかった。今後、授業に使用できる教材を作成する予定である。 ・来年度に向けて、道徳の重点目標の見直しをしていく。	B	・人権集会では、読み聞かせを通して「おもひやり」について全校で考えることができた。児童からのほかほかメッセージを紹介することや気持ちのよい習字小学校を目指すことができた。 ・本年度、道徳の研修を行うことができなかったが、R3年度に向けて学年ごとのフォルダーを制作することで、R3年度の教材研究に生かしたい。 ・R2年度の道徳の重点目標を見直し、R3年度に向けて職員で共通理解することができた。	人権・同和教育担当 道徳科主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止策について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・日常の観察や定期的な個人面談、アンケートを行い、児童の実態把握に努める。 ・把握した情報は、記録用紙に記録し、学校所定の記録簿に綴る。また、職員連絡会、生徒指導・教育相談連絡協議会等で共通理解を図り、職員全体で対応する。	B	・気になる児童や事案について各職員で観察・調査を行っている。把握した情報については、記録用紙にするとともに、管理職へ報告。生徒指導・教育相談連絡協議会を中心に、情報交換を行い、指導・支援に当たっている。児童の生活習慣等をより充実させ、落ち着いた学校生活を醸成することで、いじめの防止にもつながった。	A	・全職員で児童の観察やアンケート、聞き取りなどを行い、気になる児童や事案、生活の様子を把握した。生徒指導・教育相談連絡協議会等を活用して情報交換を行い、全職員で指導・支援に当たった。児童会と生徒指導を連携させ、児童自身に学校生活を改善する方策を考え実践させることで、落ち着いた学校生活の醸成へつなげた。	生徒指導担当 教育相談担当
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)80%以上	・地域や社会の様々な人しと出会う場面を設定し、思いや願ひを知ることで、学ぶことや働くことの意義を考えさせる。 ・各主体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・感染症予防のため、十分に活動の場を設定することはできていない。しかし、対策しながら、できる範囲で活動を仕組むことで、児童は地域や社会の人々との思いにふれることができた。 ・各活動後に振り返る場を設定し、新たな活動への意欲につなげることができた。	A	・総合学習やキャリア教育で地域の方や外部の方を講師として招き、体験活動したり、講話を聞いたりとすることで、6年生のすべての児童が自分の将来について考えたとになり、職業や目標とする人物像を思い描くことができた。 ・振り返りや肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童生徒が増加した。	特別活動担当
	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●月に一度、全校外遊びの日を設け、運動習慣の定着を図る。	・体育委員会を中心に、全校外遊びを運営したり、スポーツイベントを開催したりする。	A	・月に一度以上、体育委員会が中心になって全校児童が体を動かす機会を図ることができた。休み時間以外遊びをする児童も多く、運動習慣は概ね定着している。	A	・「元気タイム」を活用し、運動することを楽しむことができた。また、体育委員会がスポーツイベントを企画し、昼休みに開催することができた。始業前に外遊びをする児童が多く見られるようになった。
●「望ましい生活習慣の形成」	●給食後の歯みがき実施率100%を維持し、家庭での食後の歯みがき実施率90%以上	●給食後の歯みがきは、担任指導のもと、着席して鏡を見ながら正しい歯みがき指導を継続して実施する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化するよう、保健だよりで保護者への啓発を行う。	・給食後の歯みがきは、担任指導のもと、着席して鏡を見ながら正しい歯みがき指導を継続して実施する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化するよう、保健だよりで保護者への啓発を行う。	B	・児童が96%、保護者が83%、食後の歯みがきができていないと回答していた。学校での取り組みが、家庭での生活に活かされてきていると考えられる。 ・朝ごはん摂取率は100%だった。今後も効果的な啓発の仕方を探していきたい。	B	・児童が98%、保護者が74%、食後の歯みがきができていないと回答していた。学校では、着席して鏡を見ながら正しい歯みがき指導が徹底できている。 ・朝ごはん摂取率は、100%を維持できている。冬になり、早起きができない児童がみられる。保健だより1月号で、年間を通して早起きを継続するよう啓発を行った。	養護教諭
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●非常時の避難の仕方を理解し、避難訓練において安全に避難できる児童100%	・避難訓練において、児童及び職員の動きの理解を図り、状況に応じた避難を実践させる。	A	・避難訓練計画において、各職員の役割分担及び避難の目的、方法等を明確化し、職員・児童で共通理解を図った。避難訓練では、大部分の児童が真剣に、すばやく避難することができた。今後は、児童自身に状況に応じた避難の仕方考えさせ、実践させる場面を設定する。	A	・避難訓練計画において、各職員の役割分担及び避難の動き等を明確にし、指図にあたり、訓練に先立ち、職員でシミュレーションを行い、細かな対応についての共通理解を図った。火災対応避難訓練では、休み時間中の火災を設定し、児童自身に状況に応じた避難の仕方考えさせた。実際の訓練では、全児童が真剣に、すばやく避難することができた。	安全・防災教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を意識できた教職員80%以上	・タイムマネジメント力を高めるために、職員が毎日、退勤予定時刻を決めて勤務にあたる。	A	・勤務時間を意識して取り組んでいる職員が9月アンケートでは(よくあてはまる・ややあてはまる)を合わせると100%であった。「退勤時刻自己申告表」を設置することで、意識が高まってきている。	A	・勤務時間を意識して取り組んでいる職員が1月も(あてはまる・ややあてはまる)を合わせて100%であった。勤務時間を意識して仕事をしている1月のアンケートで答えた職員が、9月と比べて0.1ポイント増えた。	教頭・校長
	○業務改善委員会の活用と提言の実施	○業務改善ができたと感じる教職員80%以上	・業務内容について職員で話し合って整理し、スリム化を図る。	B	・2学期よりペーパーレスで職員会議を行うようにした。ICT支援員の活用により、授業時数集計やアンケート集計など職員の負担軽減ができている部分もある。	B	・SEI-NET文書の閲覧を廃止し、通知機能を使って職員にパソコン上で知らせることで業務のスリム化とデータの共有化を図った。	教頭・校長
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	中間評価 進捗状況と見通し	最終評価 達成度 (評価)	主な担当者	
○地域連携教育の充実	○地域連携力の拡大	○ホームページの閲覧数を前年度比120%以上	・ホームページやメールで教育活動の広報に力を入れ、チーム脊振の拡大を図る。	A	・ホームページ・アドレスを学校の封筒に追記したり、チーム脊振の方のメール登録を増やしたりして、教育活動や児童の様子に目を向ける人数を増やすことができた。	A	・コロナ感染防止の対策をとりながら、チーム脊振の人材を活用して「秋みつけ」さしみこんや作り「稚雞栽培」などの活動を実施することができた。年間を通して「お話し会」の活動も実施することができた。	教頭・校長
○小中連携教育の充実	○9年間を見通した小中連携教育の推進	○中学生または中学校教諭との交流活動についてのアンケートで肯定的回答90%以上	・小中合同の交流活動、交流授業を年間に10回以上実施。	B	・感染症対策をしながら、計画を見直しているため、児童・生徒の交流活動については、十分な実施はできていない。交流授業については、年度当初の計画を一部変更しながら実施できている。	B	・今年度は感染症防止対策のため+G32-J32、中学生による読み語りや小中交流給食などは実施できなかった。交流授業や小6と中1の交流会などは、対策を取りながら実施することができた。	教務主任
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員90%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	A	・校内支援委員会や就学支援委員会を機会を捉えて実施し、個々の事案について具体的な支援の計画を立てた。通常学級と支援学級が連携して支援に当たることができるようになってきた。	A	・特別支援教育のさらなる充実のために、外部と連携して研修を深め、来年度への準備を進めた。 ・今年度の支援体制を来年度に引き継ぐための準備・計画を進めることができた。	特別支援教育 コーディネーター
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	・小中合同の交流活動、交流授業については、コロナ渦の中でも状況に応じて、実施することができた。来年度は、共通の研究主題を設定し、ベクトルを揃えて、9年間の成長を見据えた学力向上を目指したい。 ・児童が支え合いの中で安心して学校生活を送ったり、困った時は家庭や学校の誰かを頼ったりすることができていた。引き続き、お互いの人格を尊重する指導を行い、支持的風土作りを推進したい。 ・地域・社会と連携し、様々な体験活動を通して、故郷を大切にし、生き方を再考する機会を引き続き持たせ、自ら考えて行動する児童を育成したい。							